競技審判上の注意

1　本大会は、公益財団法人日本バドミントン協会令和８年度競技規則、同大会運営規程及び同公認審判員規程により行います。
2　審判は、全て大会本部にて行います。
3　タイムテーブルの１巡目のみ開始時間が決まっています。試合開始時間に注意してください。尚、２巡目以降は空いたコートに入る流し込み方式（試合番号順に空いたコートに入る）で行います。
4　競技の進行を円滑に進めるため、「選手招集」等の放送に十分注意してください。
5　試合が連続する場合は、原則として、試合終了後１０分以上間隔をあけて次の試合を開始します。競技役員の指示に従い、選手は選手集合場所にすみやかに集合してください。
6　コーチ席２席を設けます。ベンチ・コーチ席に入ることができるのは登録したコーチのみです。
7　コートへの入場は、主審の先導によりトーナメント表の上側のチーム（選手）から入場します。主審の先導により勝利チーム（選手）から退場します。
8　各試合(マッチ)のインターバルは次のとおりです。
①各ゲームにおいて一方のサイドが８点になったとき、６０秒を超えないインターバルを認めます。
選手は２０秒前にはコートに入ってください。
②第１ゲームと第２ゲームの間、第２ゲームと第３ゲームの間に１２０秒を超えないインターバルを認めます。選手は２０秒前にはコートに入ってください。
9　インターバル中でのアドバイスは、同時に２人までコートに入ってもよいが、主審が「20秒」とコールしたら、コーチはすみやかにコートから離れてください。
10　試合（マッチ）中の水分補給、汗拭き、ラケットの交換、靴ひもの締め直し等、プレーを中断する場合は、必ず主審の許可を得てください。尚、氷嚢の使用は、インターバル中のみ認めます。
①試合時に必要なドリンク容器は、倒れてもこぼれない蓋付きボトルを使用して各自バッグに収納し、主審横に置いてください。
②氷嚢は、ベンチまたはコーチ席で小型の保冷バッグ（ソフトバック）等に入れ、保管してください。
11　主審が必要と認めた以外のプレーの中断は、一切認めません。
12　シャトルは試打してありますので、選択は認めません。また、シャトルの交換については主審が決定しますので、指示に従ってください。
13　試合中のけがや病気に対しては、主審が判断します。主審が必要に応じて競技役員長(レフェリー)を呼んだ時は、競技役員長(レフェリー)の判断に従ってください。
14　審判の判定に「抗議」や「異議」を唱えることは一切認めません。もし判定に対して疑問のある場合には、次のサービスが行われる前に「質問」をすることができます。ここで質問のできる者とは、当該選手及びコーチに限ります。
試合(マッチ)中、インプレーでない時のアドバイスはコーチ席に座って行い、試合(マッチ)中はコートのそばに立っていてはいけません。また、コーチが他のコートに移動したいときは、必ずインプレーでないときに行ってください。
15　競技フロア内での携帯電話等の使用は、一切認めません。携帯電話等は電源を切るか、マナーモードにしてください。
16　試合中にモバイル機器（タブレット端末・携帯電話等）を使用したアドバイス・コーチングは禁止します。
17　試合中の服装は、(公財)日本バドミントン協会審査合格品とし、試合時必ず上着の背面中央にゼッケンを付けてください。上着の背面の中央に、高さ６㎝以上の文字で都道府県名及び個人名(フルネーム)を明記してください。所属チーム名は記載されていても構いませんが、着衣上の表示については、大会運営規定24 条を適用します。また、ユニフォームの広告(ロゴ)については、令和３年１２月２６日付の日小連公文書のとおりとします。
18　儀礼（開閉会式、表彰、試合入退場時、あいさつ時）の際は、上衣の裾を下衣の中に入れて下さい。
19　コーチ席での服装等は、公認審判員規程第５条第１２項により「チームユニフォーム、シャツ、ポロシャツ、ブラウス、長ズボンまたはスカートとし、ジーンズやビーチサンダル、バミューダ、ショーツ、スリッパ、サンダルは禁止とする。」とします。ただし、ハーフパンツは審査合格品であっても禁止とします。
20　競技フロア内では必ず体育館シューズを履いてください。
21　その他は、代表者会議における打合せ事項のとおりとします。
22　コート入場後のウォームアップは、主審の指示により最初の試合のみ２分間行います。
シングルスの場合は、対戦相手と行ってください。ダブルスはパートナーと行ってください。この際のシャトルは各自で準備してください。
23　大会では　感染症に配慮しつつ、強要しない範囲での　挨拶と握手を推奨しております。